

わ せ だ ゆ き 早稲田夕季のひまわり通信

2008年7月 No.17

◇平成20年度6月定例会 一般質問◇

本会議の一般質問を行いました。テーマは①鎌倉らしいまちづくり
②児童虐待防止の視点から子どもの健全育成と教育支援。



- ◆建設常任委員会
- ◆総務常任委員長
- ◆一般会計決算等審査特別委員長
- ◆一般会計予算等審査特別委員会
- ◆観光ナビシステム調査特別委員会

関谷の生ごみ処理施設用地の買収断念 ―原因究明！―

周辺の農業者や住民をはじめとする2万人以上の反対署名を無視して、市は事業者と3月末までに関谷の用地取得の契約を強行しようとしていましたが、契約当日になってようやくストップがかかりました。調査した結果5月27日に、当初の事業計画では既存宅地としての条件を満たさず開発許可相当ではないとして、契約を断念しました。

用地の買収価格が宅地並みでは高すぎる、既存宅地の条件を満たしていないのではないかと、2月定例会で議論が紛糾しましたが、行政は見る、聞かざる、言わざるに終始しました。結局、都市計画部が既存宅地として住宅開発許可相当とした判断ミスが原因です。不動産鑑定評価など万全な価格算定も行っていませんでした。市内のあちらこちらで、開発問題の事業者任せのやり方が批判を浴びています。行政は再発防止に向けてどのような体制で取り組むべきかを提示していません。「市民の信頼回復に取り組み」と明言した市長の公約は今まだ実現されず、大変残念です。

早稲田夕季プロフィール

- 昭和33年12月6日生まれ
- 百合学園小・中・高校、早稲田大学法学部卒業
- 日本輸出入銀行・地元ミニコミ紙記者
自宅で学習指導
- 早稲田大学鎌倉校友会
鎌倉日仏協会・鎌倉同人会
鎌倉ホームヘルプ協会ベルの会
鎌倉風致保存会
逗子鎌倉の中世遺産を考える会
カトリック雪ノ下教会に所属



鎌倉まつりで

意見

●市議会の「現状回復決議」は、開発により壊される前の元の位置での階段復旧を求めている。

●近隣住民や玉縄地域の団体との協議の中で、概ね承認工事案で了解を得られているという市都市整備部の発言には疑問がある。早急に市民協議の記録を提示し、根拠を説明してほしい。

●切り崩された民地宅下の崖地対策は喫緊の課題であるのに、放置したままにしておくのは市民の安全安心を守るべき行政の職務を放棄している。

●事業者案を基本に取り組みというのであれば、接道要件を事業者のために整えることになり、元通り階段を復旧してほしいという住民要望とは全く相いれない。

大船観音前マンション問題 ―まさに市民を向いていない、事業者に向けた手法に断固として反対！―

**市「業者案基本に」
反対住民ら反発も**

鎌倉市の大船観音前マンション開発許可が取り消され、壊されたままの階段状市道の復旧工事について、市は開発事業者案を基本に取り組むと12日の市議会で明らかにした。住民は「2回も開発許可が取り消された業者案を基本にするとは」反発している。住民が生活道路としてきた市道が約3年間も利用できず、昨年2月議会で石渡徳一市長が現状回復を表明。この日の本会議で早稲田夕季議員から質問が出された。担当部長は業者が市に提案、承認された工事案を基本とする考えを明らかにした。(後略)

朝日新聞・湘南版
(6月13日)より転載

【連絡先】 早稲田夕季 後援会 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-12-10 TEL&FAX 0467-24-9371(※)

ホームページ: <http://www4.ocn.ne.jp/~yuki12/> メール: himawari-yuki@quartz.ocn.ne.jp

あなたの声をお聞かせ下さい!

※不在の場合は、留守電にお名前を入れて下さい

★児童虐待防止の視点から子どもの健全育成と教育支援

暴力をふるう、食事を与えない、子どもの前で夫婦けんかを繰り返す。わが子を虐待する痛ましい事件が後を絶ちません。全国の児童相談所に対応した平成18年度の児童虐待相談件数は37,000件に上ります(厚生労働省集計より)。これは平成2年度の34倍、児童虐待防止法施行前の平成11年と比べて約3倍。

平成17年4月から、鎌倉市は「こどもと家庭の相談」の相談室を開設し、関係機関と連携して児童虐待の未然防止、早期発見、援助に取り組んでいます。

鎌倉市「こどもと家庭の相談」における内容別虐待相談件数

	H17年度	H18年度	H19年度
総数	49(100%)	185(100%)	146(100%)
身体的虐待	16(32.7)	32(17.3)	26(17.8)
ネグレクト	27(55.1)	69(37.3)	50(34.2)
心理的虐待	6(12.2)	82(44.3)	69(47.3)
性的虐待	0(-)	2(1.1)	1(0.7)

市の取り組み

●児童虐待の早期発見、早期対応のために、乳幼児健診等の行政健診や子どもの家、保育園での保育状況等の中で、心配される案件について情報がよせられる仕組みが確立している。児童相談所、保健所、学校、主任児童委員、医療機関などで構成する要保護児童対策地域協議会の中でこれらの情報を共有し、未然防止に努めている。

●要保護児童の支援にあたっては、保護者の経済的困窮や疾病等を含め、複雑な事情があり長期にわたるケースも多い。各ケースにおけるネットワークの連携を強化し、慎重かつ丁寧な支援を図っていききたい。

意見

家庭の状況把握のためにも小中学校の家庭訪問の積極的な実施、不登校児童のためのフリースペース・ゆいを親子の支援スペースとして活用するなど、教育委員会に主任児童委員との連携を要望しました。

富裕層の多い鎌倉では、生活保護世帯や一人親家庭、児童虐待等の実態があまり浮き彫りになることはありません。しかし、現実には精神的に不安定な母親が一人で子どもと暮らしている崩壊寸前の家庭があり、親が離婚をしたために高齢の祖父母が子どもを育てるケースも増加しています。低収入で社会的サポートが受けられなければ、当然家族内部にストレスが増し、不幸な結果をもたらすことは十分予測できます。

行政だけでは対応しきれない部分を民生委員・主任児童委員さんが世話を焼いていただいている事例も少なくありません。家事支援や親子の見守りをしていただいています。委員さんだけでなく地域住民で子どもたちの成長を見守り、個別に支援していく体制づくりが必要です。

「反貧困」湯浅誠著(岩波新書)

「日本社会の3層構造のセーフティネット(安全網)が崩壊している。雇用のネット、社会保険のネット、公的扶助のネットがほころび、うっかり足を滑らせたら、どこにも引っかかることなく、最後まで滑り落ちてしまう。このような社会を私は「すべり台社会」と呼んでいる。『中略』児童虐待においても「すべり台社会」の中でどん底まで落ちてしまった家庭の苦悩が反映しているケースが少なくない。」

市民の皆様へ アンケートにご協力下さい!

お手数ですが、紙面にご記入の上、0467(24)9371までFAXして下さいますようお願い致します。

- ★鎌倉のまち並みや景観について、あなたのお考えを教えてください。
- ★子育て支援のためのどんなサービスを望みますか。
- ★市政全般に対する疑問点・ご意見をお寄せ下さい。

お名前	電話番号
住所	

活動ポートレート



4月22日(火) 岩手へ視察
官学協働を目指す岩手県紫波町と世界遺産登録を目前に控える平泉町を視察しました。

5月16日(金) ご近所トーク
新鎌倉山の先輩のお宅で、浅尾議員のミニ集会に合わせて、私の「ご近所トーク」を開かせていただきました。ニュージーランドの通商大臣と面談後に駆けつけた浅尾議員は、後期高齢者を別立てにするのではなく、人間の一生の保険制度を一本化する政策を提案。



5月25日(日) 御谷・里山まつり
風致保存会の会員制度10周年を記念して、里山まつりが開催されました。子どもたちに里山遊びを知ってもらおうと、盛りだくさん。竹馬や竹とんぼ、木や葉っぱを使った工作など、子どもはもちろん、おとなも目を輝かせていました。